令和２年度　符津小学校　学校研究（改定版）

１．研究概要

研究主題

自ら学び，共に学び合う子の育成

～授業改善とカリキュラム・マネジメントの両面から～

（１）主題設定の理由

本校は、４月当初、算数科の授業研究を中心に、副題を「主体的・対話的で深い子どもの学び」として研究する計画であった。しかし、コロナウィル感染拡大防止による２ヶ月の臨時休校、更に密をさけるためのグループ学習の自粛、大規模改修に伴う南部中学校での授業実施等の影響により、本校の目指していた児童の対話を中心とした授業改善を推進していくことが難しい状況が続いた。

また、臨時休校期間中に実施した新学習指導要領の職員研修や児童の現状を観察することを通して、

・学力向上から児童の資質・能力向上を図ることに意識を転換する必要があること

・児童が学ぶ意味が実感できるように「カリキュラム・マネジメント」の研究が大切であること

・児童の実態から、まず「学びに向かう力・人間性」の育成に重点をおくことが必要であること

などを職員間で再確認する機会を持つことができた。

そこで、本校の大規模改修の終了により児童の主体性が発揮しやすくなった１０月より、授業を含め教育活動全体を通して、児童の主体性が現れるように「児童の行動を変えよう」という目標を掲げ、実践を積み重ねてきた。授業改善では、算数科を中心に「教師の見取りと手立て」を新しいテーマに設定し、子どもの見取りによって授業展開を変える柔軟性を持つこと、Ｃ評価をＢ評価にする手立ての工夫について研究を始めている。

カリキュラム・マネジメントでは、生活科や総合的な学習を中心とした体験活動の中で、教科との関連をより意識することで児童の学ぶ意味を実感させる取組と運動会等の学校行事や委員会活動と道徳や特活等との連携を図ることで「学びに向かう力・人間性」を育てる取組にチャレンジしている。

このような本校の現状から、研究主題は「自ら学び、共に学び合う子の育成」と変らないが、副題を年度途中ではあったが、「授業改善とカリキュラム・マネジメントの両面から」に変更し研究を進めることにした。

（２）研究の３つの柱

①授業づくり

・適切なねらいの設定

・児童が主体的になる学習課題提示の工夫

・考えをもち、表現する場の設定

・学びを深めるための教師のコーディネート

・ふり返る活動による学びの自覚化

②カリキュラム・マネジメント

・カリキュラム・マネジメントを生かした実践

・学びの自覚化・生き方につなげる実践

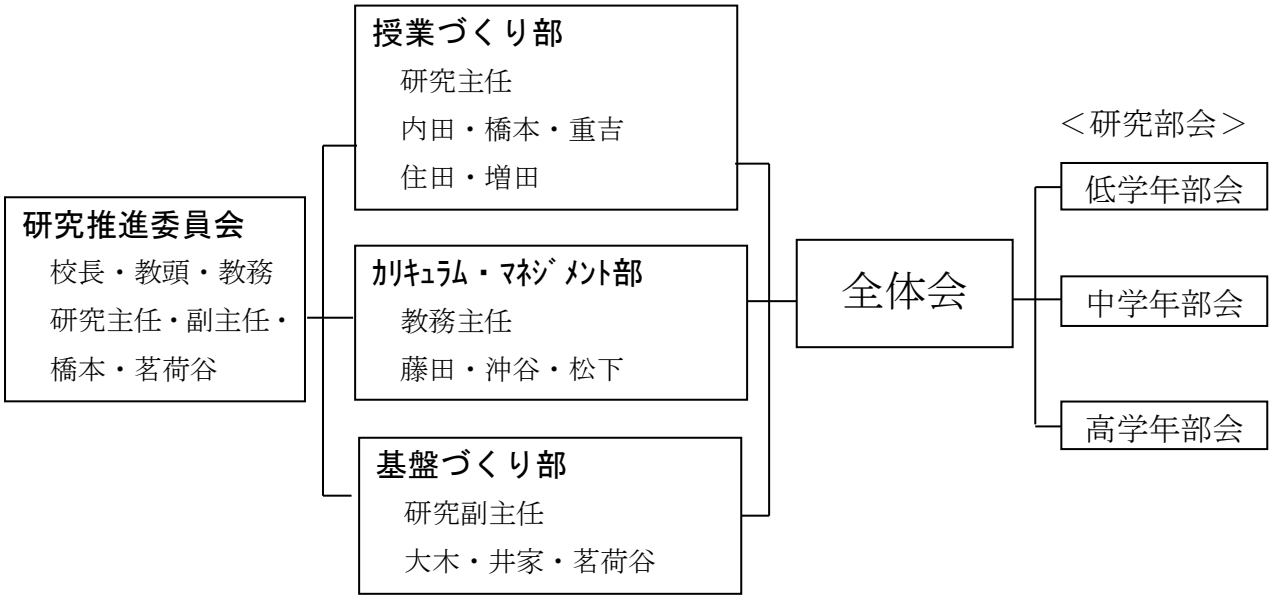
③学びの基盤づくり

・５つの気プラス１を意識した学ぶ姿勢

・児童の言語活動(話す・聞く)スキルの育成

・効果的な学び合い学習の工夫（思考ツール）

（３）研究の組織



（４）検証について

教師の手立て	児童の変容	検証（方法）
自分の考えをもち、表現できる場を設定する	短く、キーワードを使って分かりやすく説明できる	ノート，発言，児童アンケート
対話的な学びを深めるために教師の関わりを吟味する	考えるための視点ができ、学びを深めることができる。	ノート，発言，児童アンケート

（３）研究構想図

〈小松市教育目標〉　～智仁勇　あすのこまつを創る人～
生涯にわたり　みずから学ぶ人・思いやりある　心豊かな人・すこやかで　活力あふれる人・
ふるさとを愛し　世界にはばたく人

〈学校教育目標〉　心豊かでたくましく，しっかり考え，自ら進んで行動する児童の育成

研究主題　自ら学び　共に学び合う子の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現　算数科を中心として～

「研究を通しての具体的な児童の姿」

○自ら学び　共に学び合う子の育成

・「学びたい」という意欲をもち、進んで学習にむかう。
・自分の考えをもち、表現の仕方を工夫し、相手に伝える。
・さまざまな学習形態で学び合い、自分の考えを表現し深めていく。
・友だちの考えを共感的な態度で聴き合う。
・学んだことを他教科や行事等で活用しようとする。

（１）授業づくり
（符津小授業スタイル）

①適切なねらいの課題設定
②児童が主体的になる学習課題提示の工夫
③考えをもち、表現する場の設定
④学びを深めるための教師のコーディネート
⑤ふり返る活動による学びの自覚化

（２）カリキュラム・マネジメント
（学びに向かう力の育成）

①カリキュラム・マネジメントを生かした実践（総合的な学習の時間を中心）
②学びの自覚化・生き方につなげる実践（ｷｬﾘｱﾊﾟｽﾎﾟｰﾄ）

（３）学びの基盤づくり

①言語活動スキルの育成
・聞くめあてによる意識化
・めざすきき方の提示、話型の提示
・コミュニケーションタイム

③情報活用能力の育成
・情報の整理、分析、判断
・情報の表現、処理、創造
・考えの表現と発信

②考えるための思考ツールの活用
・ベン図、イメージマップ、ＹＸＷチャート、
ピラミッドチャート、フィッシュボーン、ＰＭＩ

検証　○発言、ノートやプリント等、日常の児童の記録の分析から
○アンケートや実態調査から　○評価問題の到達度から

２．これまでの取り組み概要

（３）授業改善に向けて具体的な取り組み

①教師の見取りとＣ評価の児童への手立て

・見取りの３段階　「自力解決」→「学び合い」→「評価場面」

・すばやく「C 評価」を見つけ、状況に応じて授業展開を変える。
　⇒これまでより広い教材研究

・B 基準を明確にして授業に臨む。

・主体的に学ぶ姿を見取り、いい考え方・姿を価値づける。⇒クラス経営につなげる

②授業整理会の工夫

・参観者がＣ評価の児童を観察し、見取ったことをもとに、目標が達成できたかどうかやその要因について協議した。

・ジグソー形式を活用した授業整理会
　エキスパート班（３人のＣ評価の児童について見取ったことをもとに話し合う）⇒ジグソー班（話し合ったことを持ち寄り、話し合う。

③研修機会の充実

・サポート事業の活用（２回）

・NITS による新学習指導要領の共通理解

（４）子どもにとって学ぶ意味を実感できるカリキュラム・マネジメント（教務より）

（５）学びの基盤づくり

①児童の言語活動スキルの育成「きくこと」

・NHK for school「お伝と伝じろう」の活用（うめらいス）

・月ごとに学校全体の「きくこと」のめあてを共有し、さらにクラスごとにその目当てを達成するための具体的な取り組みを考え、実践した。

・反応の大切さ

②子どもたちの思考力を広げるための「思考ツール」の積極的活用

・各教科や総合的な学習の時間での活用

・委員会等の体験場面に合わせて活用

３．符津小授業スタイル

	目指す児童の姿	主体的・対話的で深い学びの実現のための 教師の関わり
つかむ	１　学習課題を把握する ・児童による前時のふり返りを行う。 ・今日の学習課題を把握し、自分で考えようとする意欲をもつ。 ・既習内容を想起し、解決の見通しをもつ。	◆既習内容・既習内容の理解度を確認する。 ○　児童が主体的になる学習課題の提示 ◆児童に問いや気づきをもたせ、それをもとに、ねらいに迫る適切な課題設定を行う。 ◆問題解決の見通しを児童と共有する。
考える・深める	２　自分の考えをもつ ・数学的活動、具体的・半具体的操作、既習をもとに自分の考えをもつ。 ・考えたことを言葉・数・式・図・表などを使って表す。 ３　自分の考えを伝え、友だちの考えを聞いて深める ・事象や問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明する。 ・「数学的な見方・考え方」を働かせ、学び合い活動を通して新しい概念を形成したりよりよい方法を見つけたりする。	○　考えをもち、表現する場の設定 ◆自分で考える時間を確保する。 ◆考えを持てない児童に関わり支援する。 ◆個々の考えを把握する。（見取り） ○　学びを深めるためのコーディネート ◆学習形態を工夫する。 ◆発表の羅列にならないように発言をつなぐ。 ◆思考を深める問い返しやゆさぶりを工夫する。 ◆つまずきや誤答の活かし方、支援の仕方を検討する。 ◆考えを整理する構造的な板書を工夫する。
まとめる	４　まとめ・適用問題・ふり返り ・本時のめあてに対して分かったことや考えたことを図や文章で表現する。 ・学び合いで深めたことを生かして、適用問題に取り組む。 ・１時間の授業でどんな学びがあったのかを視点を意識して書く。 （自分の考えの深まり、変容、新しい気づきが分かるように） ・「できた」ことを実感する。 ・次時の課題を設定する。	○　ふり返る活動による学びの自覚化 ま◆学習課題を整合した内容にする。 ◆児童の言葉を生かしてまとめる。 適◆授業のめあてにあった適用問題を設定する。 ◆ねらいが達成できたか評価する。 ふ◆学んだことや学び方に対して成長の実感や ◆授業の学びを６つの視点を意識して書かせる。 ◆達成状況を見取り、Ｂ規準に達しない児童には個に応じた指導をする。

①適切なねらいの設定（教材研究）

・つけたい力を明確にする。
・単元の最後に理解させたいこと、発言させたいことを想定する。
・学習課題を吟味する。
・ねらいを達成するための指導計画を考える。　・教材開発、問題作り　・板書、ノート指導計画

②児童が主体的になる学習課題提示の工夫

・「あれ不思議だな？」「なぜだろう？」という心を揺さぶるしかけをつくり、学習のめあてにつなげる。
（例）数値や場面を隠す　比較の場面にする　不思議な事象を見せる　間違いを提示する
ICT を活用する　等

③考えをもち、表現する場の設定

・具体的な操作をノート・ワークシート・ホワイトボードに書く。
⇒　自分の考えを言葉・数・式・図・表などを使って表す
・自分の考えの可視化。
⇒　ふきだしの活用（立式後、式の意味を明確にする）、式と言葉や図をつなげる

④学びを深めるための教師のコーディネート

・効果的にペア・グループ・全体等で交流し、考えを深め合う。
【ペア】自分の考えを明確にする、考えに自信を持つ、理解の確認、考えの補充・深化
【ｸﾞﾙｰﾌﾟ】１つの考えに練り上げる、新しい考えをつくる、多面的な思考や多様な解釈の交流
・効果的な発問(問い返し)等により、発言を促し、考えを深める。
共感、復唱、ヒントを問う、理由・根拠を問う、児童の思考や表現のよさを問う、他の表現を問う、反論、比較、分類・整理、意味を問う、変容、一般化し広げる
・見取りと支援

⑤ふり返る活動による学びの自覚化

【まとめ】課題に対応したまとめ、キーワードを使って(板書から)、算数用語をつかって
文型を提示して、書き出しを与えて
【適用問題】課題解決の結果を利用した問題、誤答を修正させる問題
計算の仕方や考え方に視点をおいた問題
学力調査問題を活用した問題（単元末に取り入れ、複数の資料を読み取る問題に慣れる）
【ふり返り】ふりかえりの６つの視点
①分かったこと(キーワード)、②できるようになったこと(キーワード)
③友だちの意見でよかったところ・役立ったこと、④問題を求めるために使った学習
⑤今日の学習はどんなことに使えそうか、⑥今日は～、次は～。

【単元末のまとめ】学年の実態に合わせて取り組む
単元末に単元全体をふり返る（算数新聞、ノート）